1. 平均雲量1.5未満の日数
2. 平均雲量8.5以上の日数
3. 日 照 時 間

1. 平均雲量1.5未満の日数
2. 平均雲量8.5以上の日数

雲量は、全天空に対して雲が占める見掛け上の割合で、11段階（0～10）に分けて表わしている。雲量0は雲が全然ないか、有ってもごく少量、また、雲量10は雲が全天を覆うか、隙間が有っても極く少量の状態を示したもので、霧や煙霧なども雲量に含まれている。

平均雲量1.5未満の日は、ほぼ快晴の状態であり、また、平均雲量8.5以上の日は、ほぼ曇天の状態である。

我が国の平均雲量は、季節的地域的変動が大きく、梅雨期には全国的に多く、冬期には太平洋側で少なく、日本海側で多い。

年間の平均雲量1.5未満の日は、関東地方の内陸部で多く、また、日本海側や南の離島で少ない。

年間の平均雲量8.5以上の日は、山陰から北海道にかけての日本海側で多く、太平洋側や南の離島で少ない。

〔凡例と作図の要点〕

平均雲量は、1951年から1980年における国内各地の気象官署の観測値による平年値である。月および年の平年値は、1日4回（3･9･15･21時、ただし3時の観測のないところは1日3回）観測の日平均値から求める。

〔主な資料〕

1. 気象庁，1982年日本気候表　その2　地点別月別平年値(1951～1980)
2. 気象庁，1980年版日本気候図

3. 日照時間

日照時間は、太陽の直射光が雲や霧に遮られることなく、地表を照らす時間の長さである。日照時間の長さは、季節的、地域的に大きく変化する。

我が国の年間日照時間は、一般に太平洋側と瀬戸内海沿岸で長く、日本海側と山岳部で短い。日照時間の年変化を見ると、夏期には全国的に長いが、冬期には地域差が大きく、太平洋側で長く、日本海側で短い。

日照率は、日照時間の可照時間に対する比率である。可照時間は、太陽の中心が地平線から出て、地平線に没するまでの時間である。この値は、太陽が山などの障害物によって隠れる時間を考慮しないで、その地点の経緯度と高度から算出する。

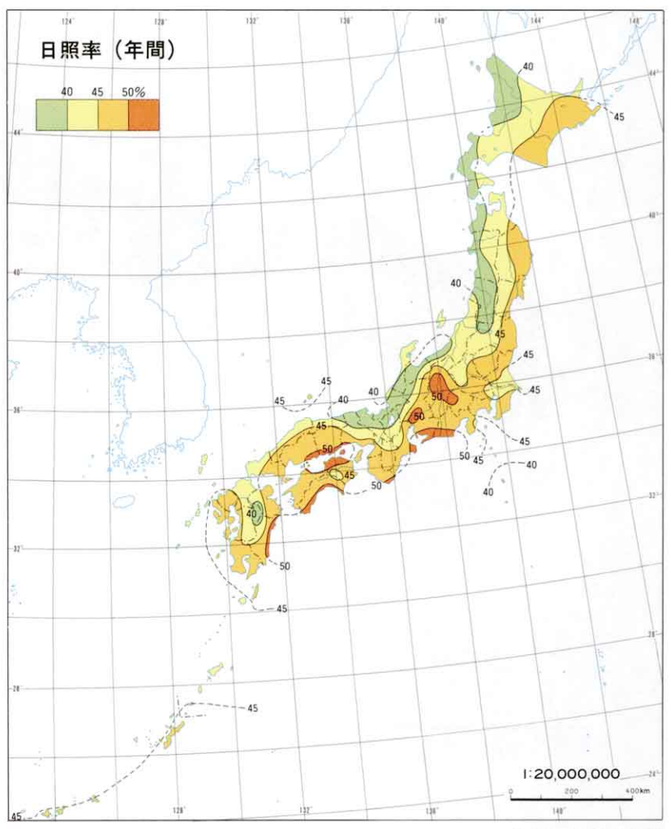
日射量は、太陽から地表に達する放射熱量で、これには直射日射量（太陽からの直接の熱量）と散乱日射量（天空からの散乱熱量）があり、晴天のときに両方を合わせたのが全天日射量である。全天日射量は太陽高度と雲量に関連し、日射量が最も多くなるのは、1日では太陽の南中時、また、1年では夏至の頃である。

〔凡例と作図の要点〕

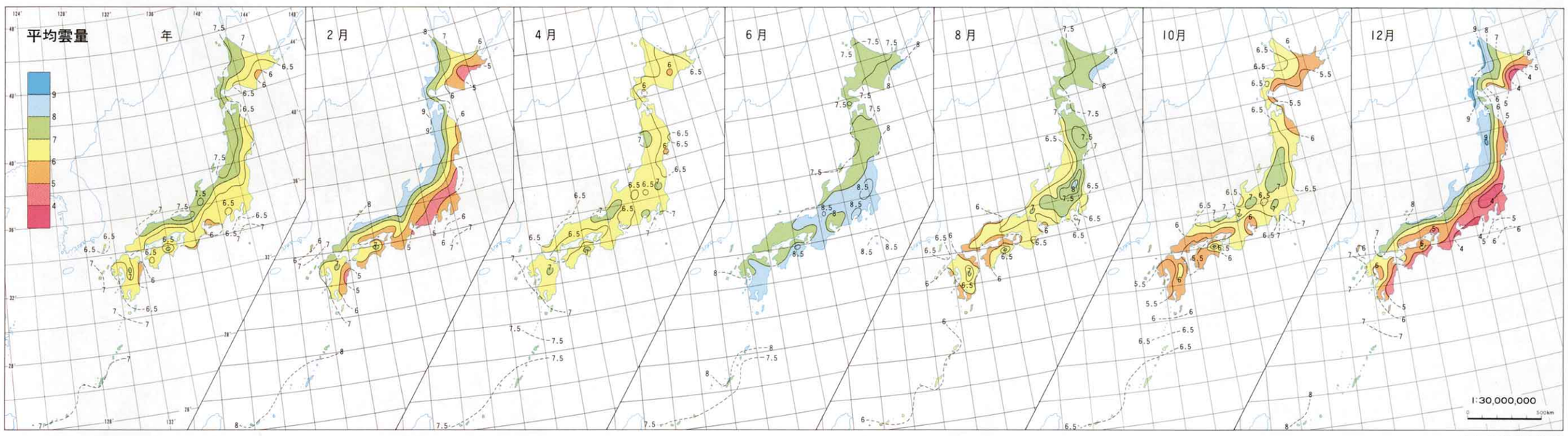
日照時間は、1951年から1980年における国内各地の気象官署の観測値による平年値である。月および年の平年値は、日観測値から求める。

〔主な資料〕

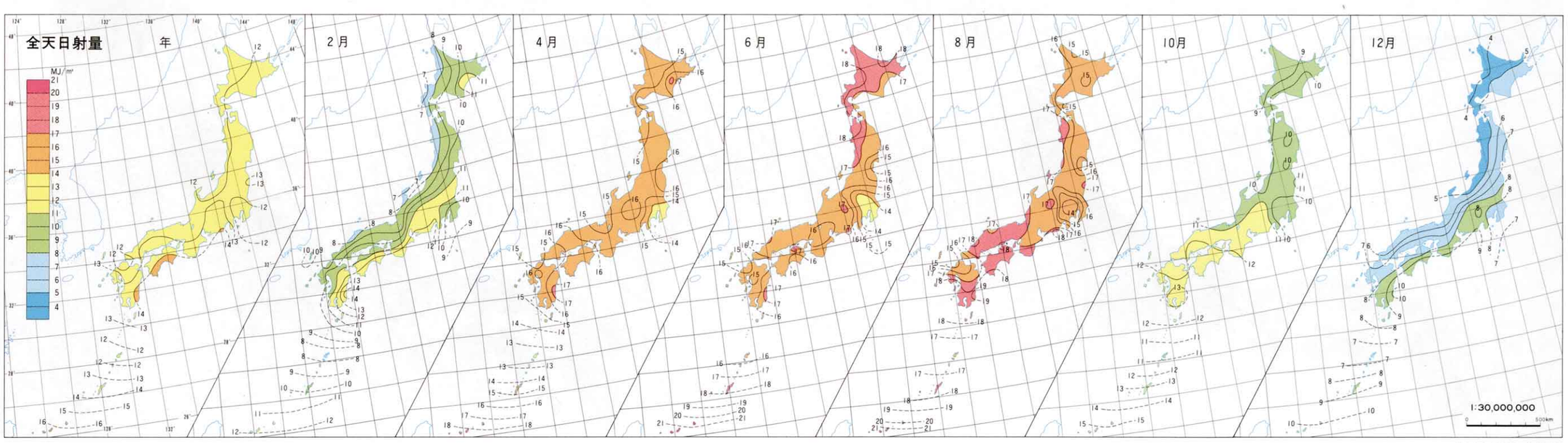
1. 気象庁，1982年日本気候表　その2　地点別月別平年値（1951～1980）
2. 気象庁，1980年版日本気候図



（日本気候表から作成）



（日本気候表から作成）

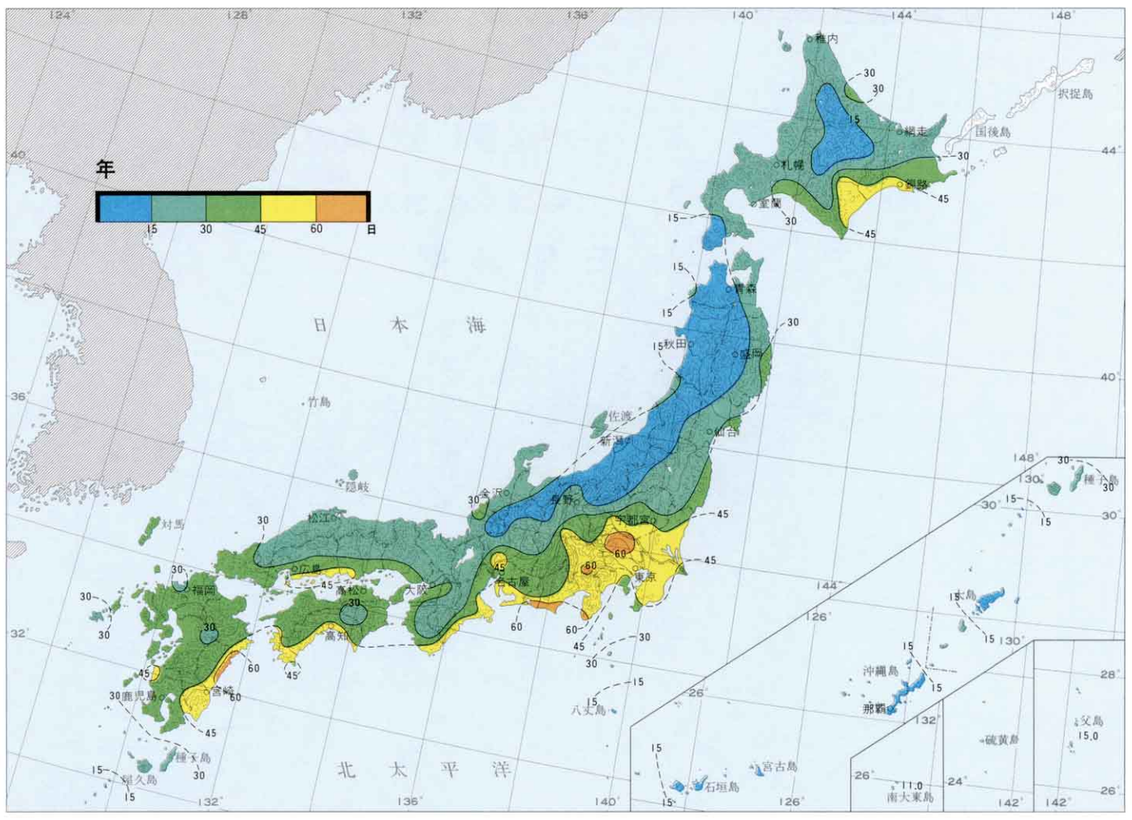


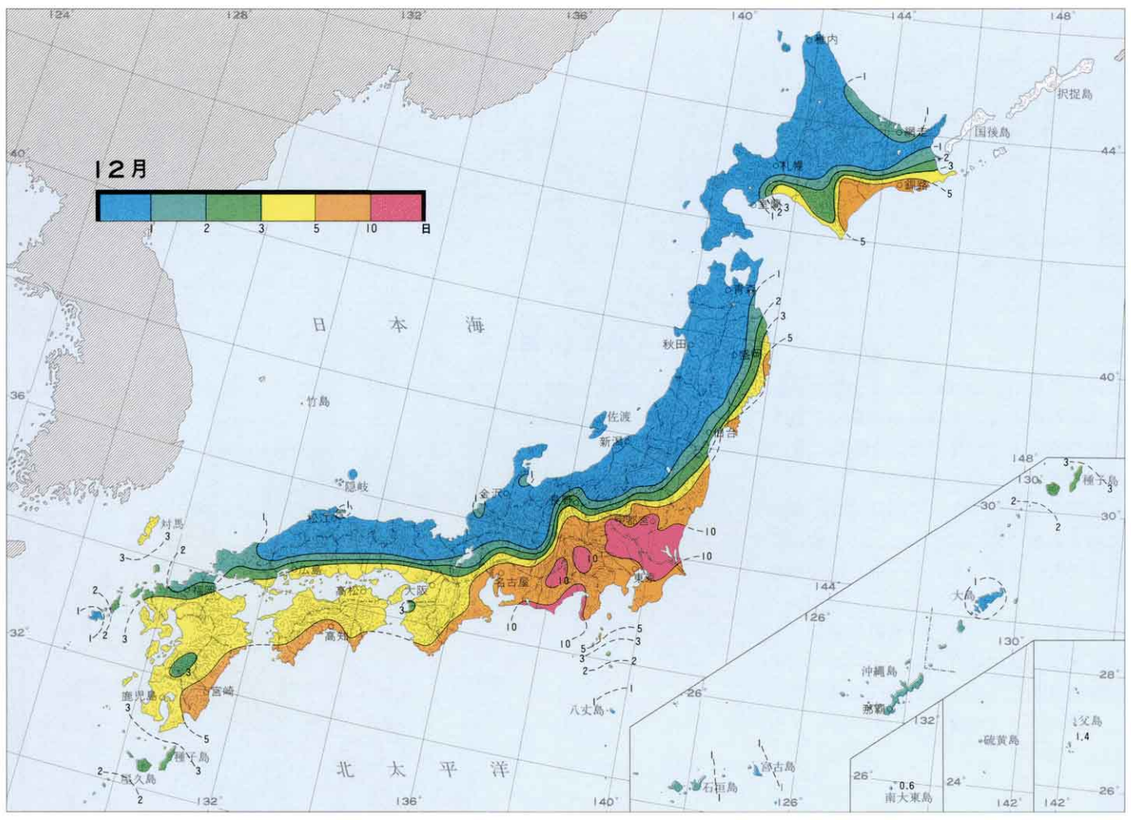
（日本気候表から作成）

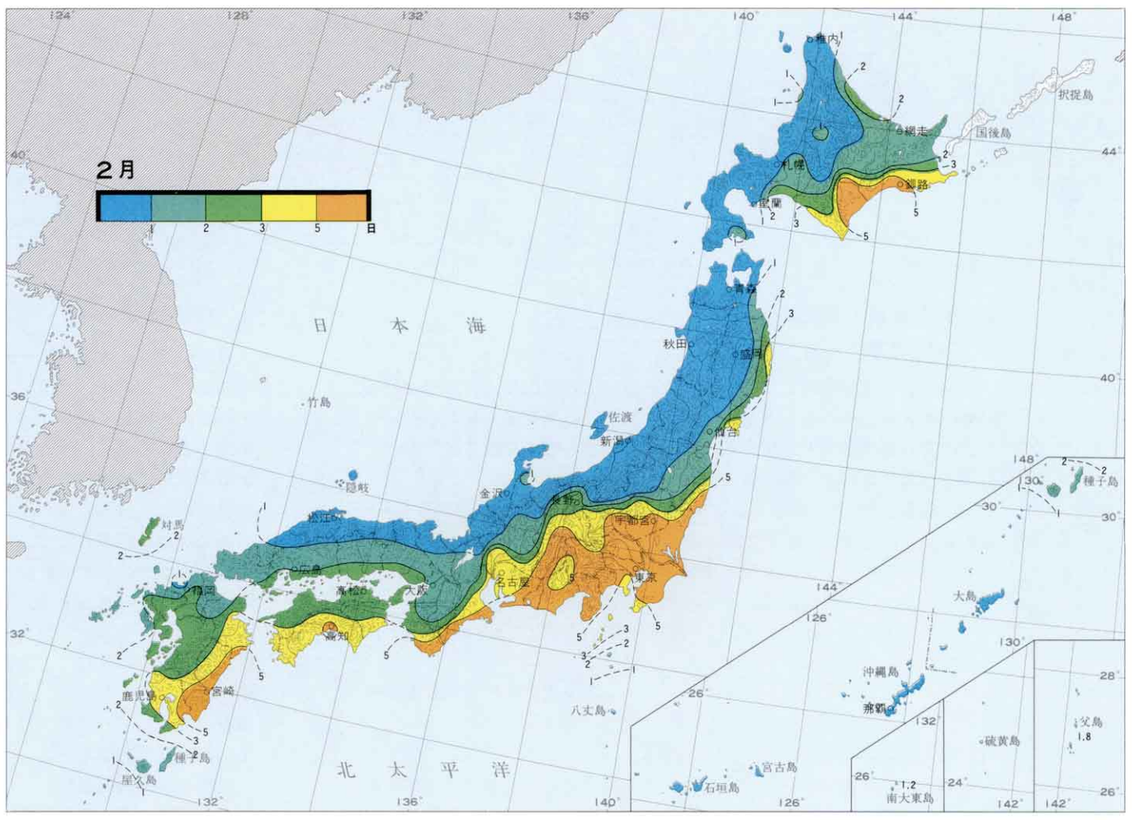
12.1

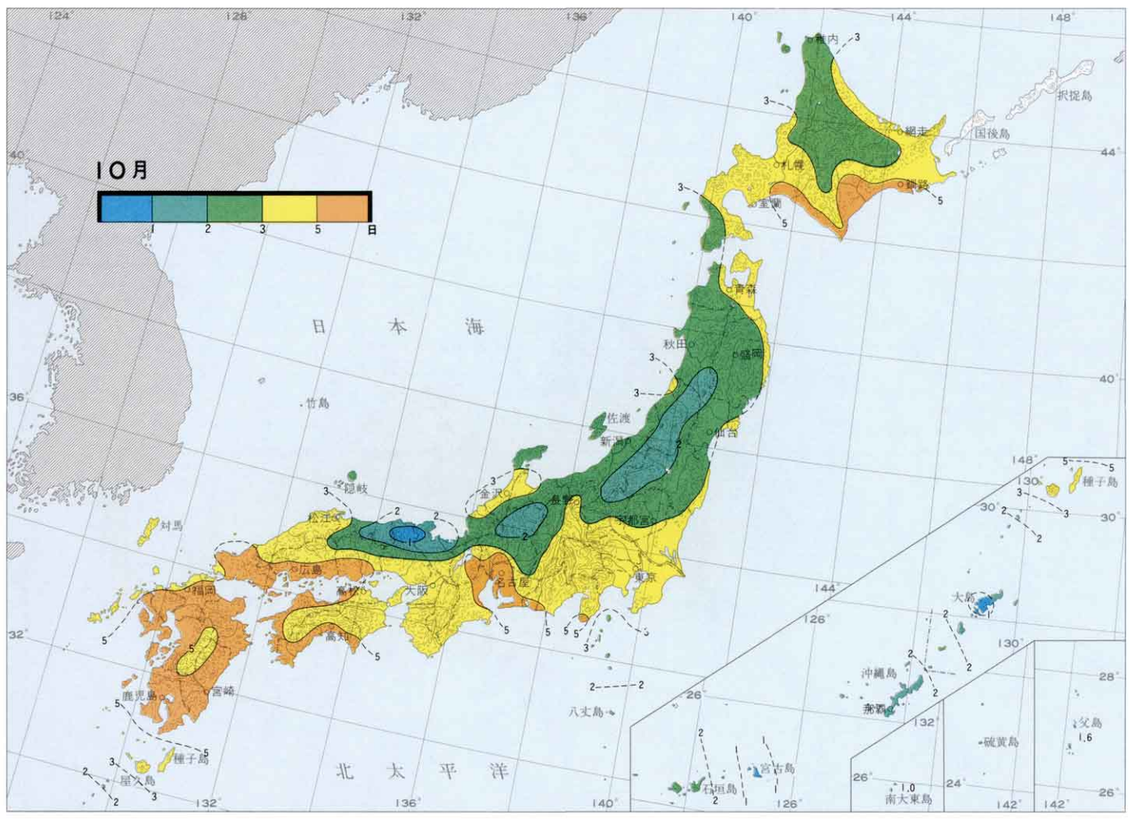
平均雲量1.5未満の日数

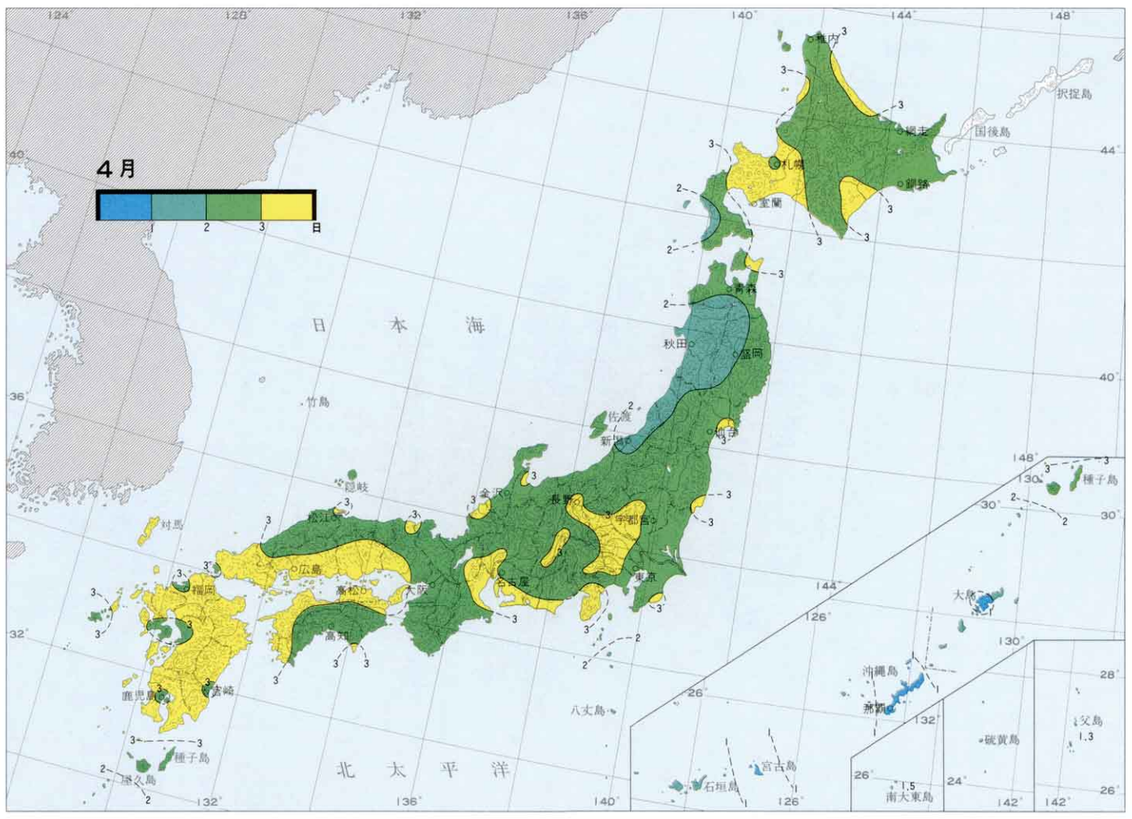
1:12,000,000

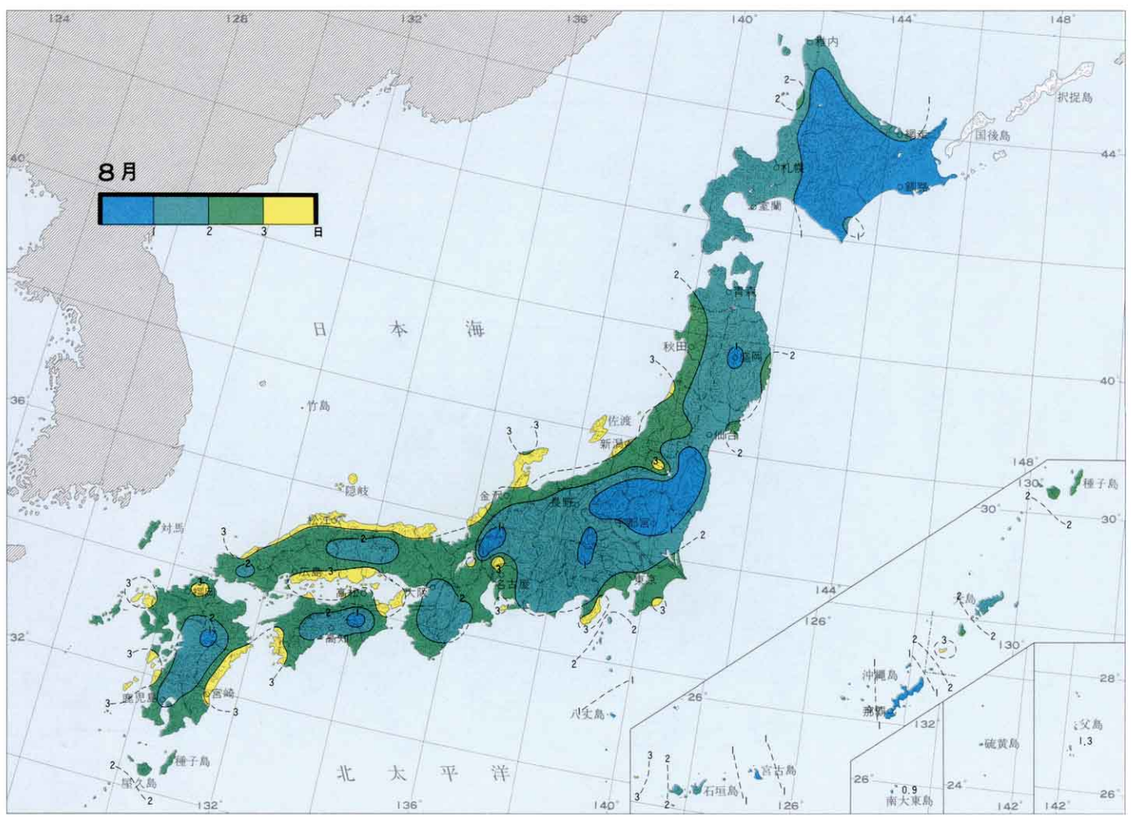


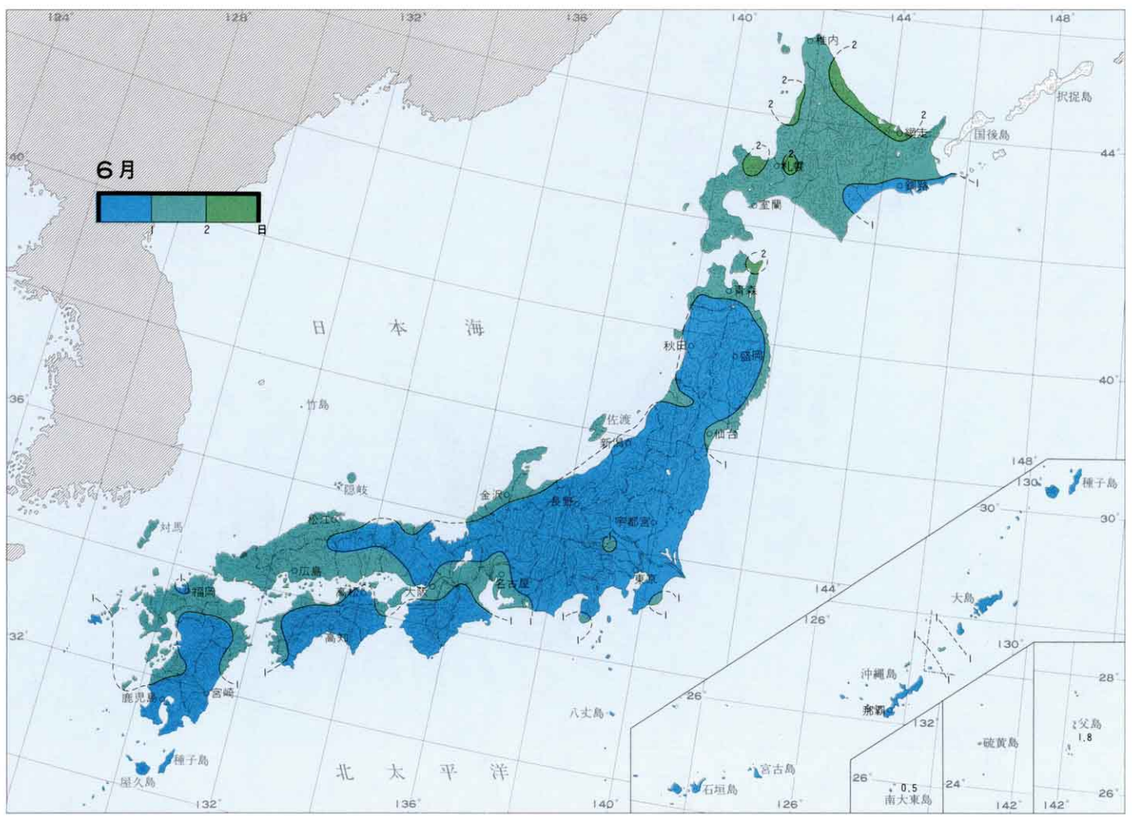






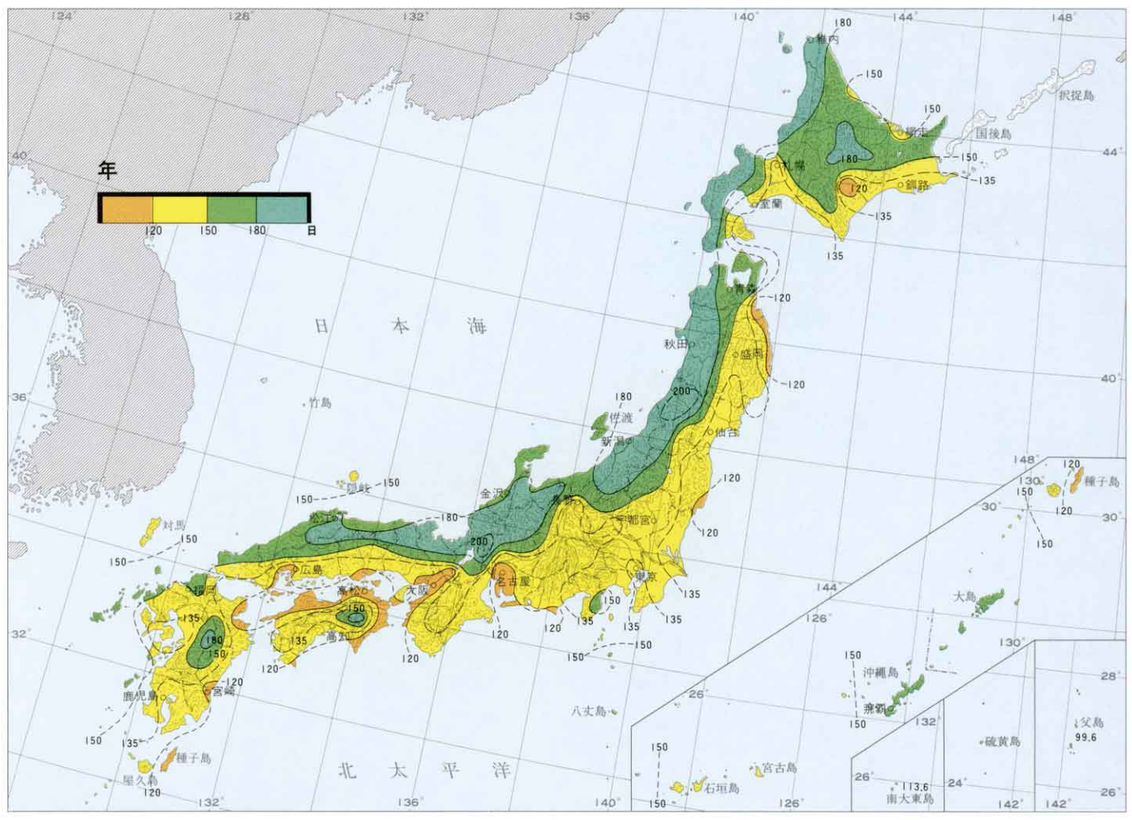


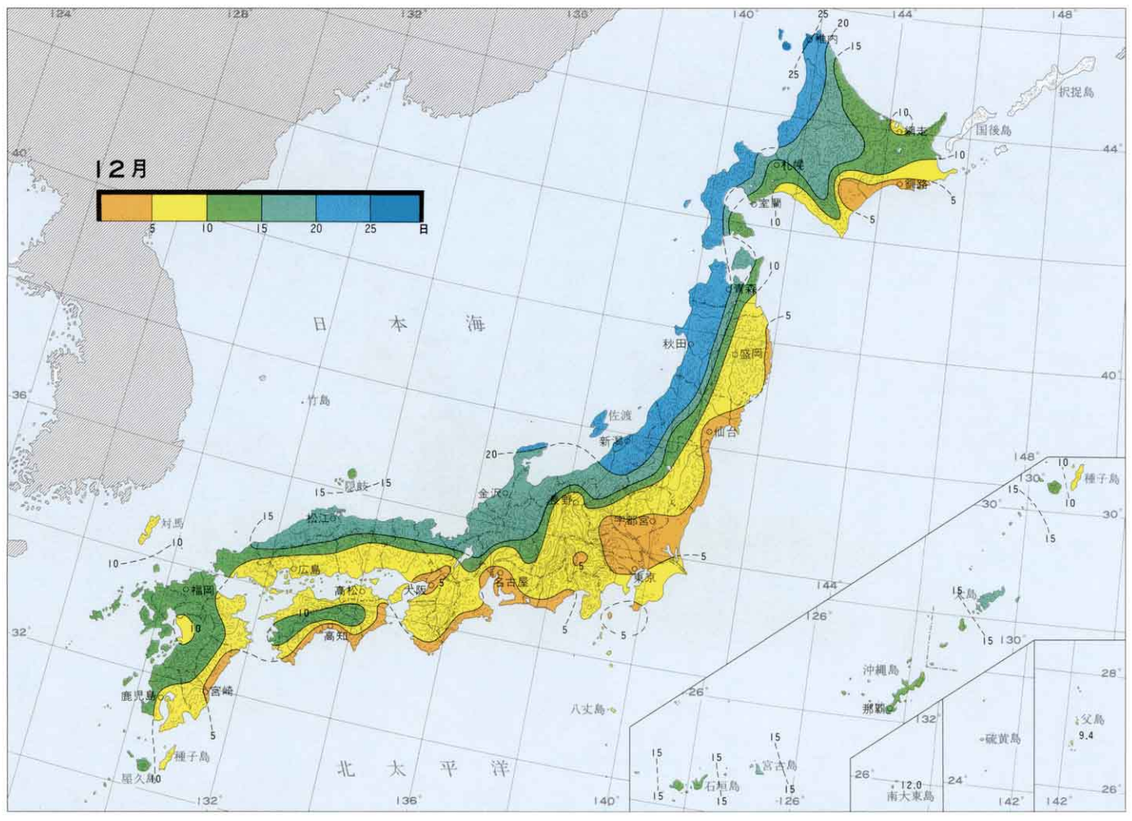


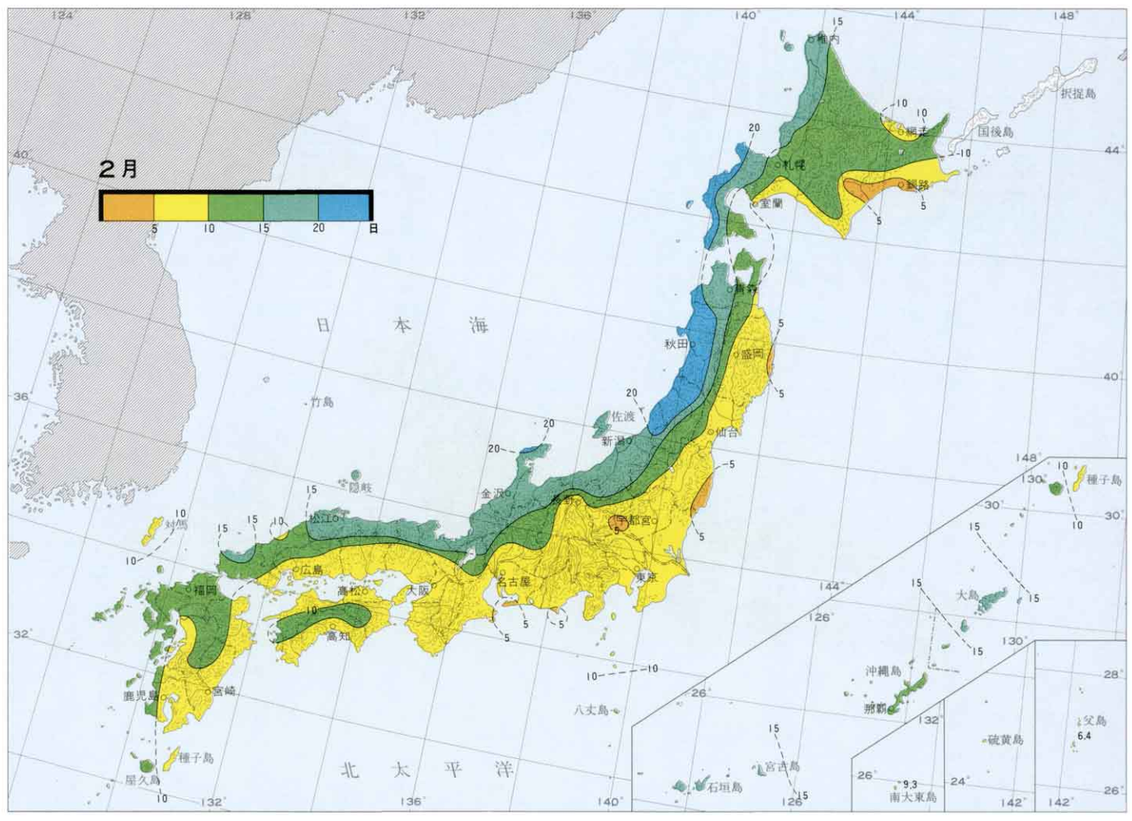


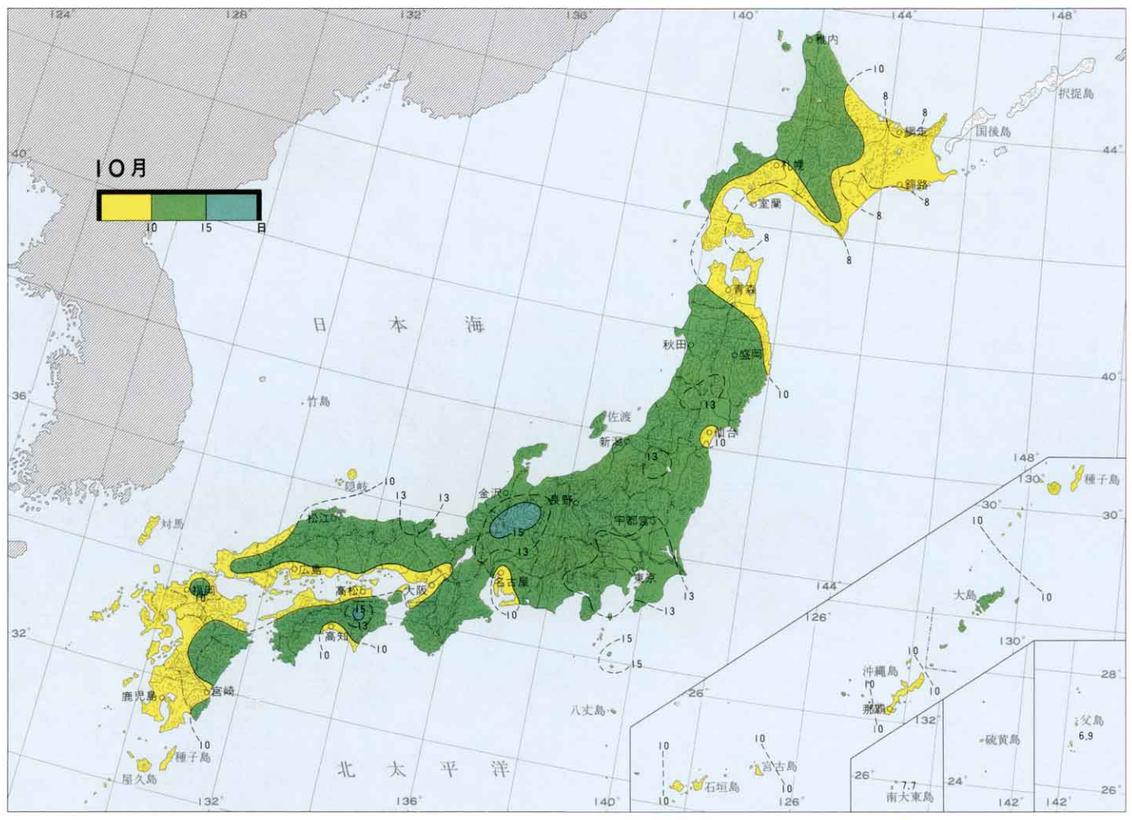
平均雲量8.5以上の日数

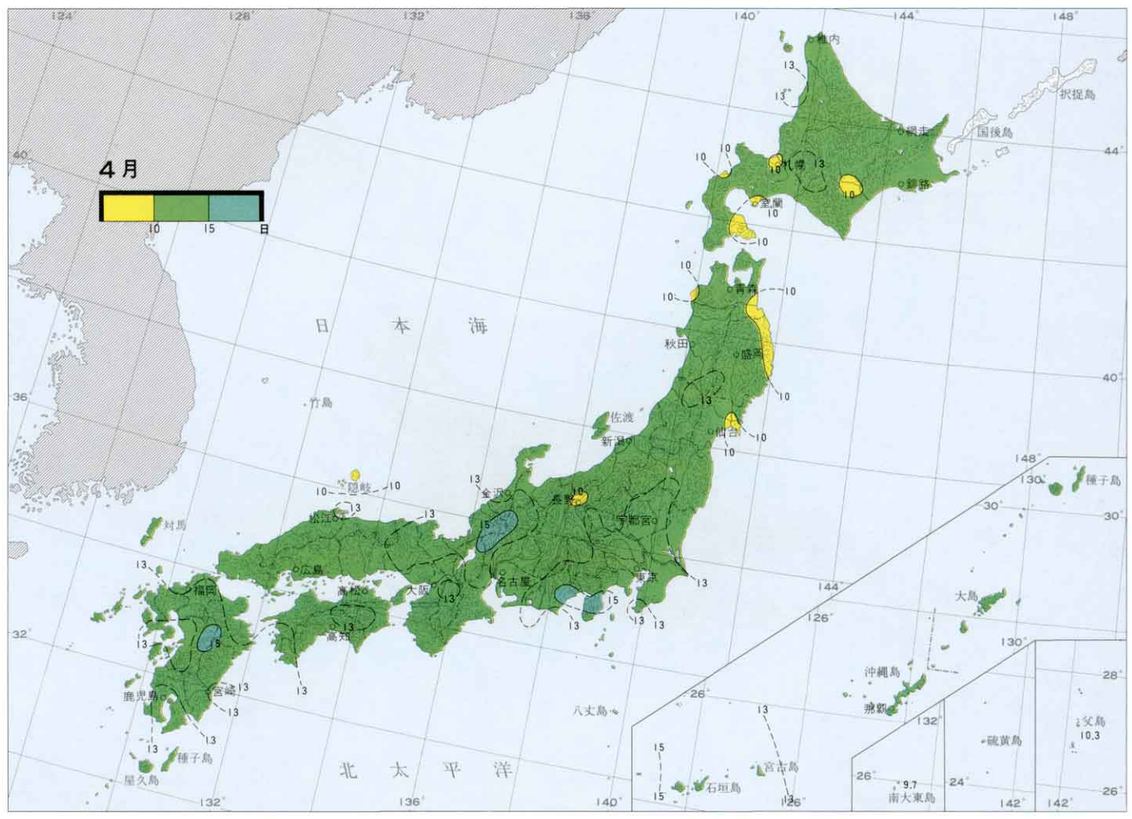
1:12,000,000

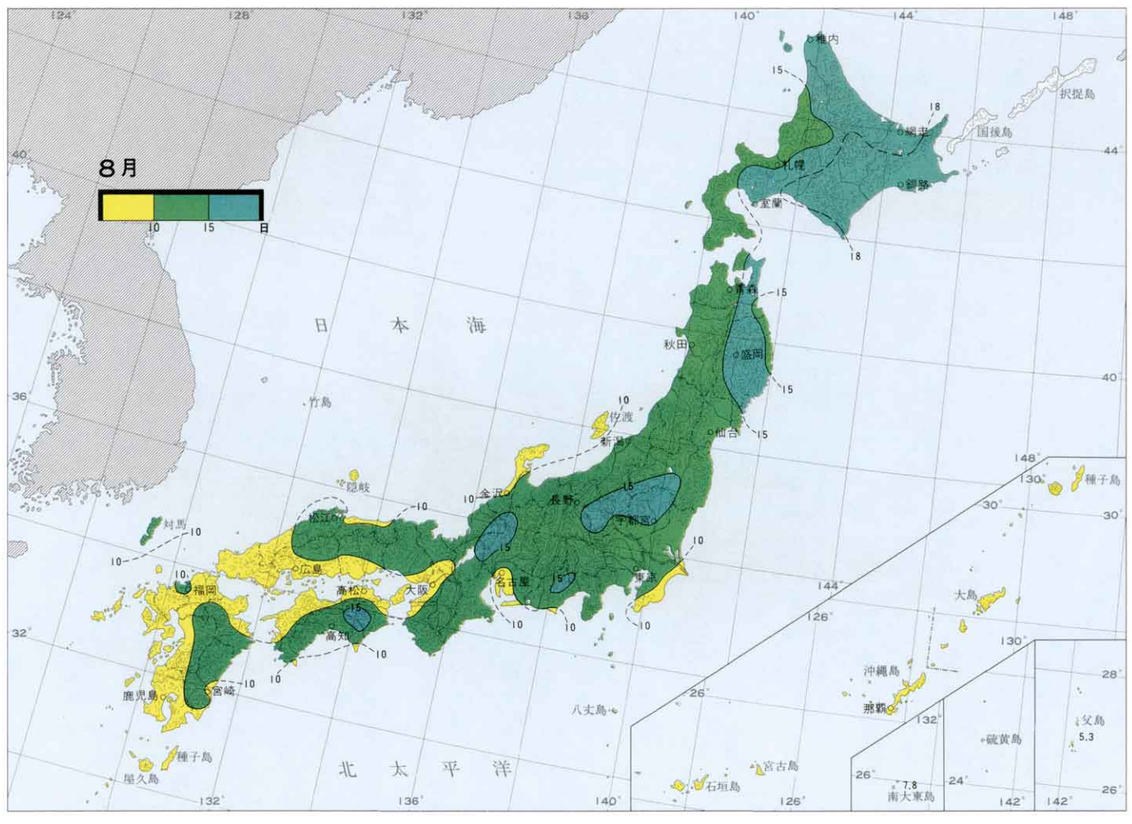


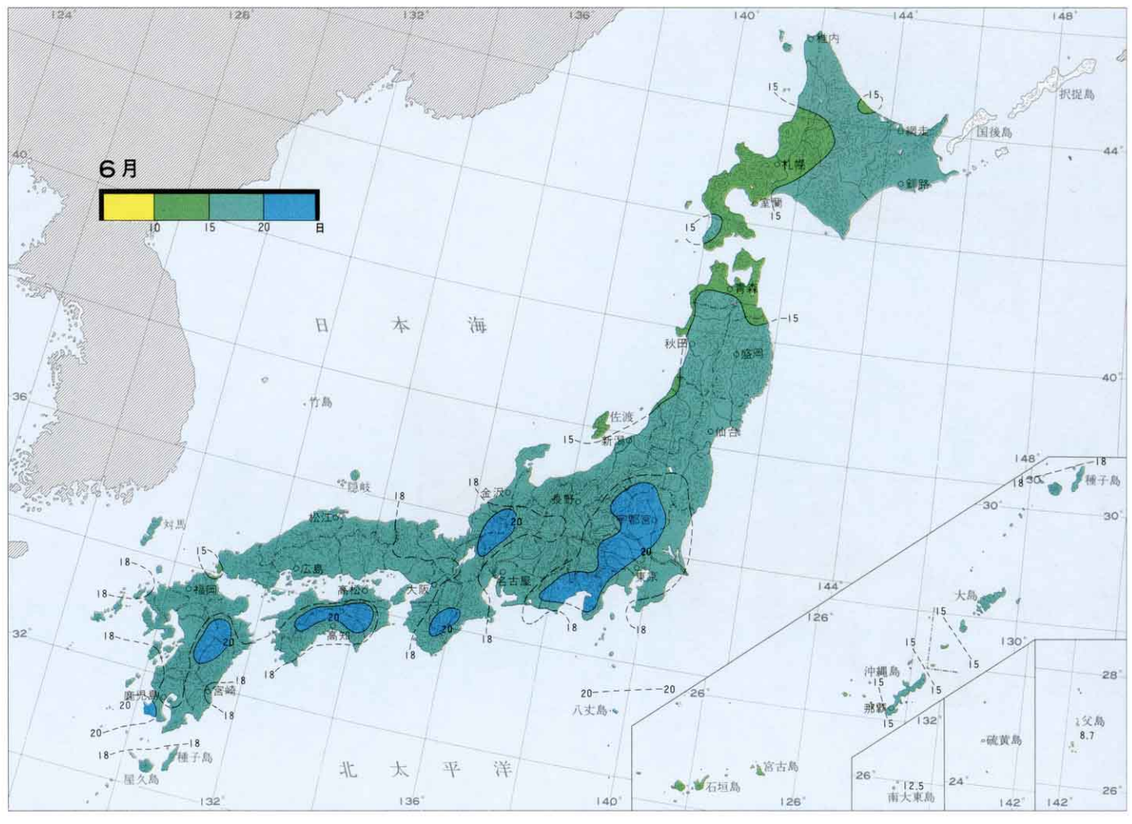




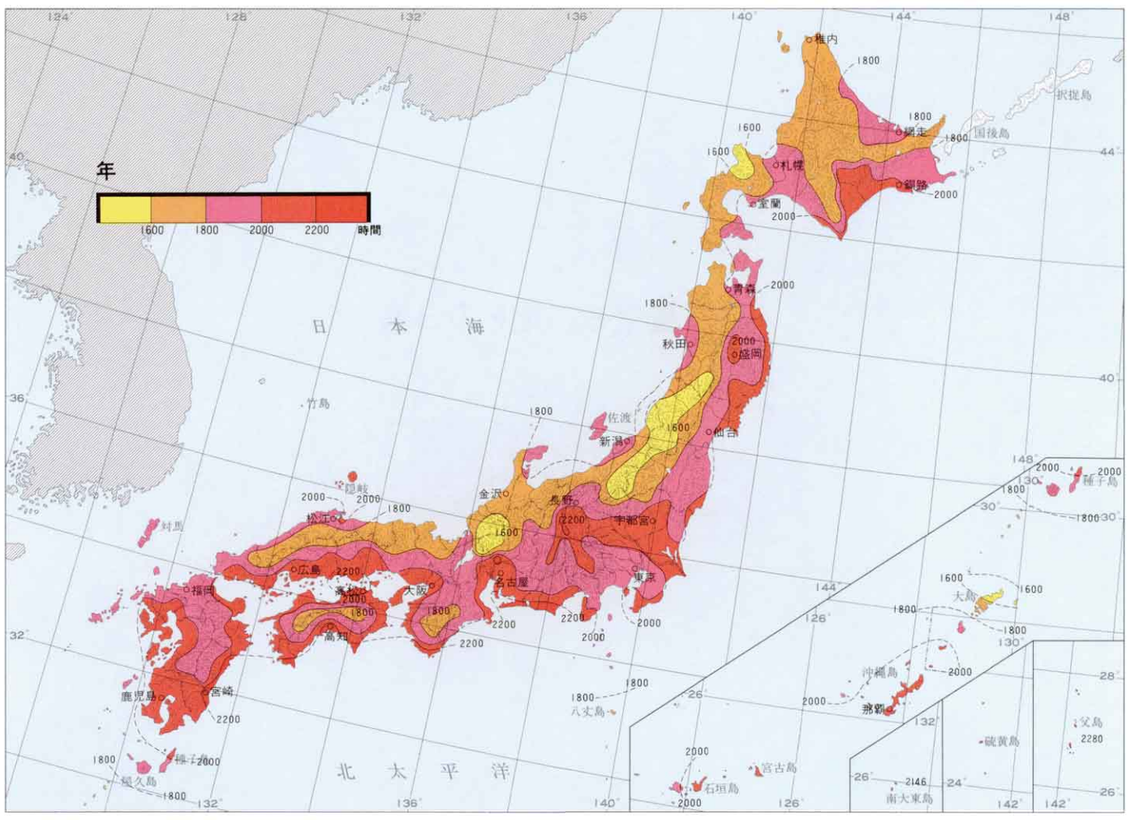
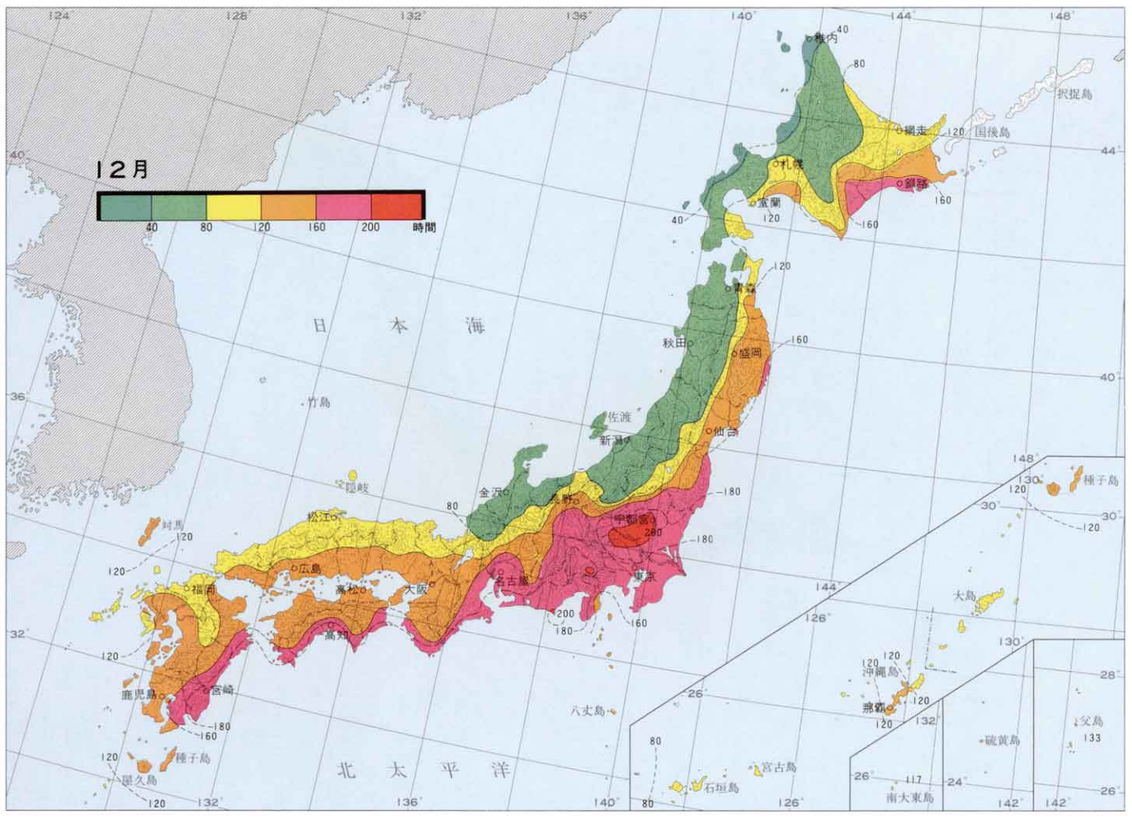
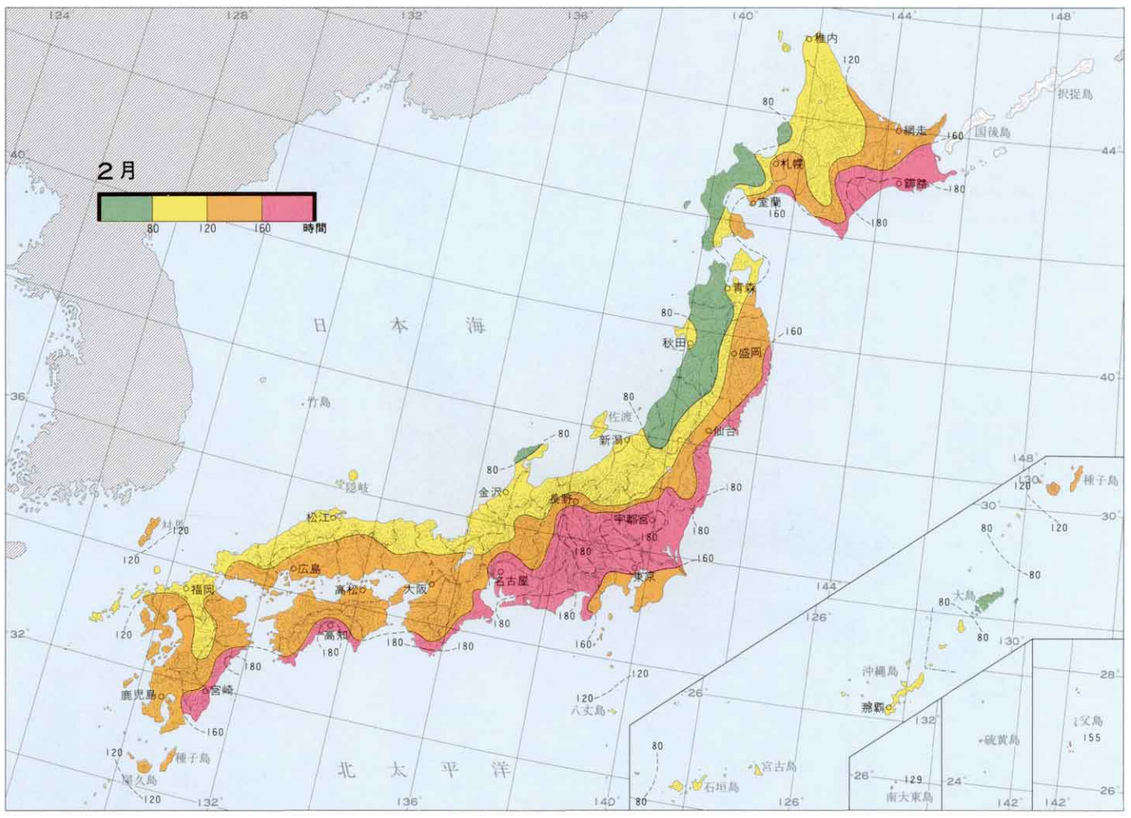
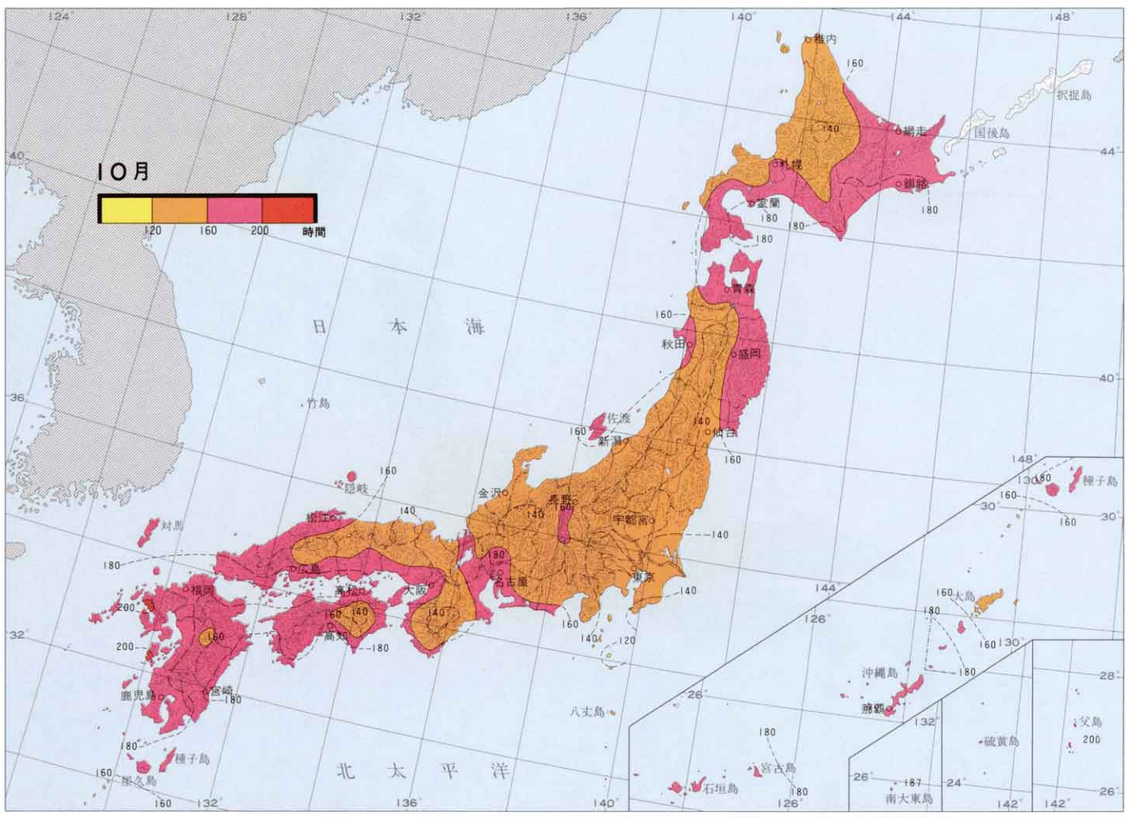
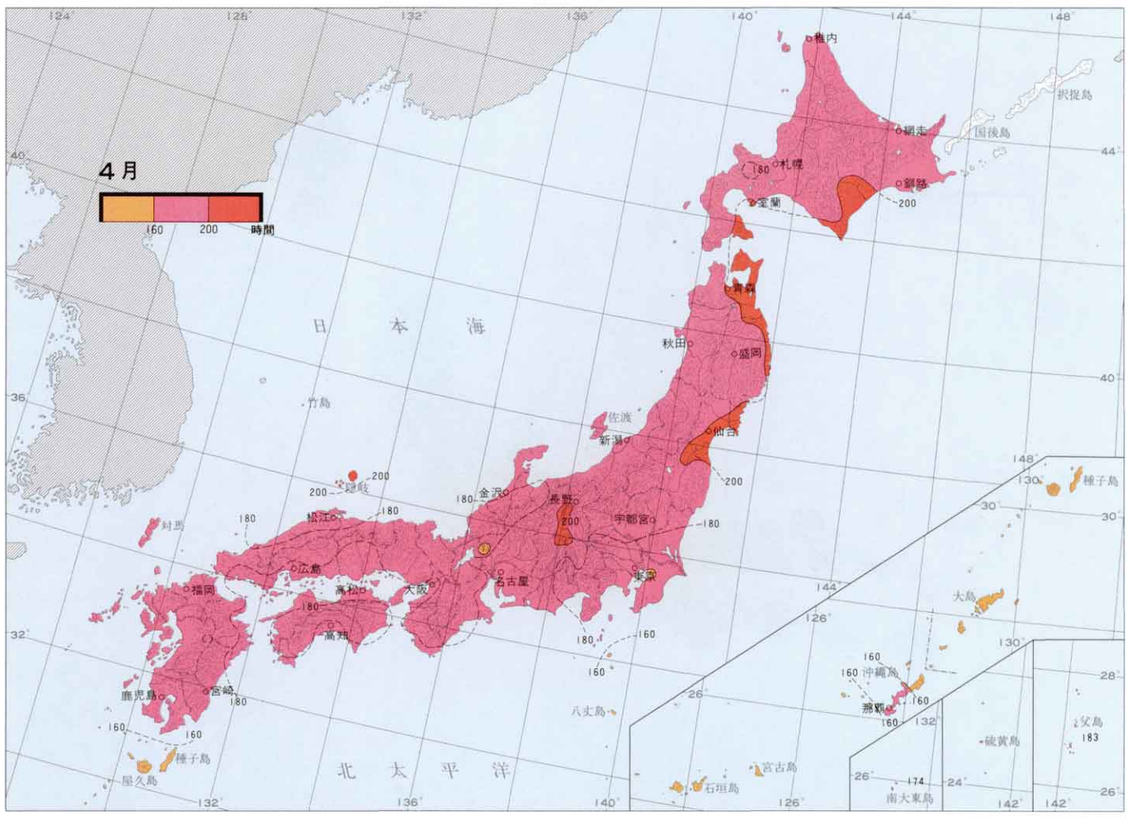
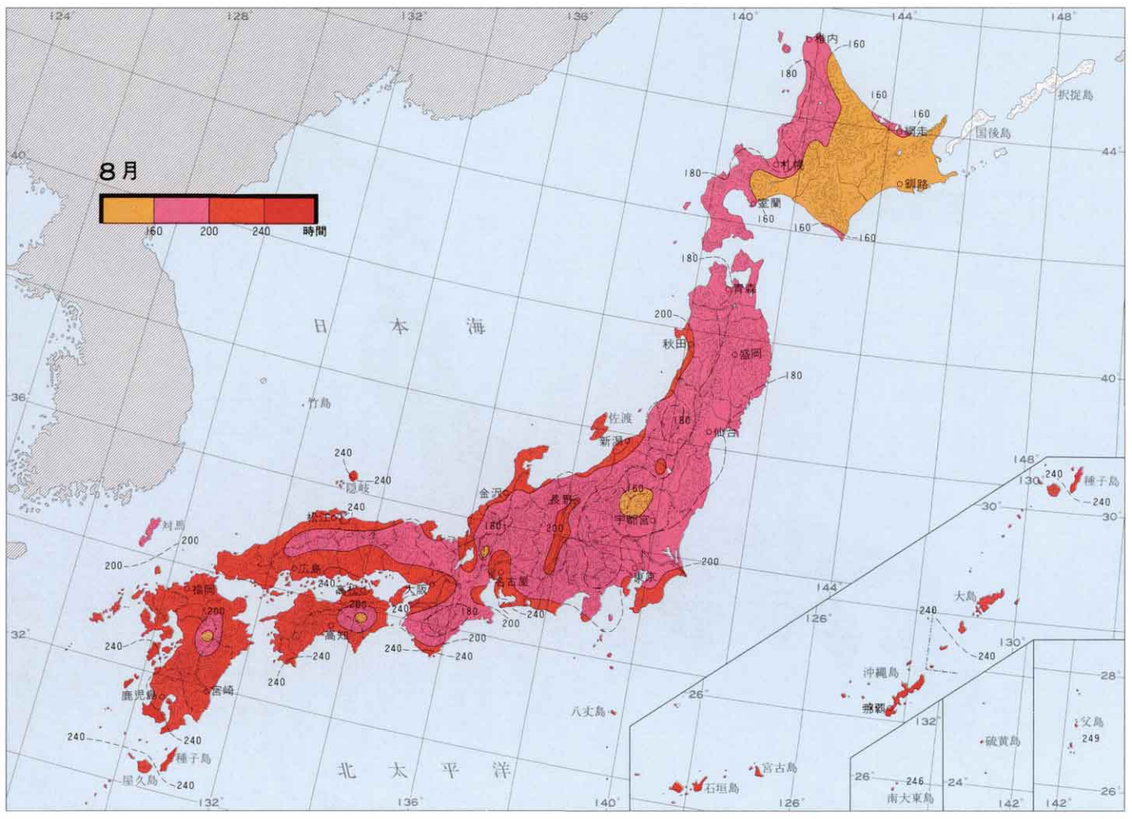
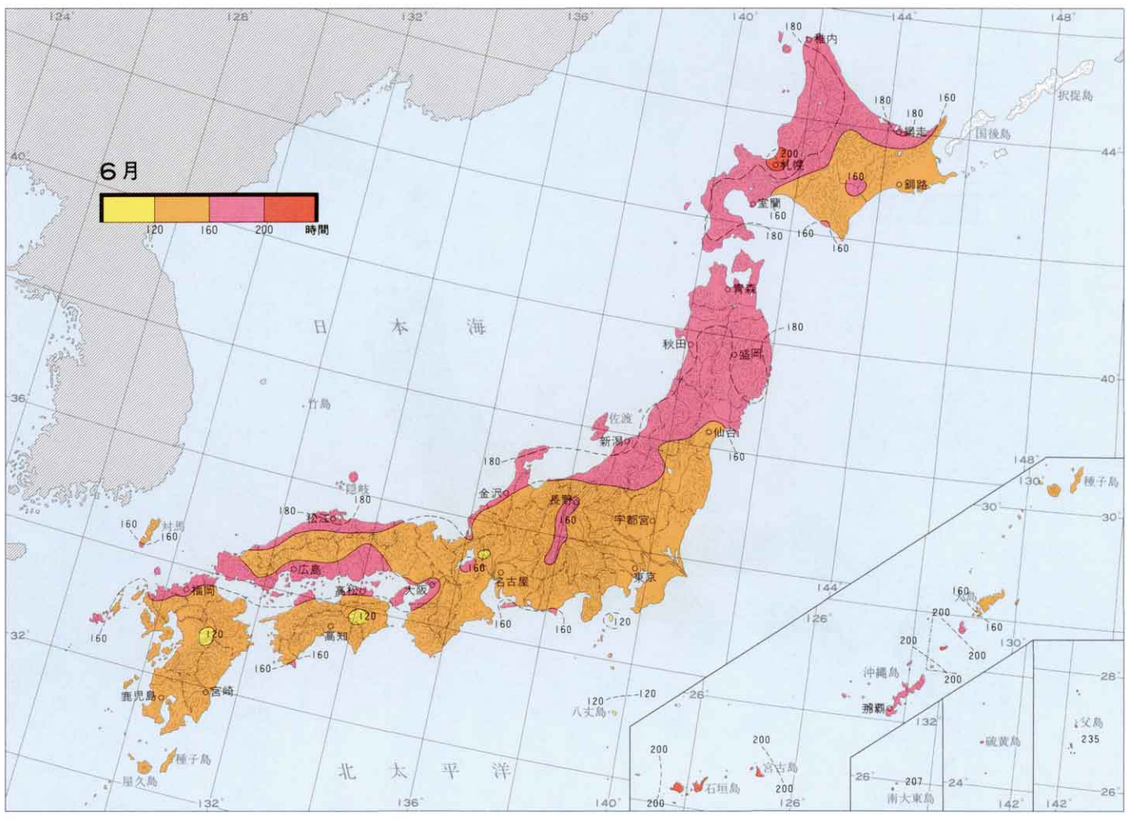








12.3

日　照　時　間

1:12,000,000